



クラウドで融資業務改革

【303】

nCino (エヌシーノ) は、2019年に日本法人を設立。銀行出身者が銀行のために作った融資業務プラットフォームだ。クラウドサービスで、金融界でも取り組みが急がれるDX (デジタルトランスフォーメーション) を支援する。コロナ禍で業務の見直しを迫られる金融機関への提言を、野村逸紀代表取締役社長 (43) に聞いた。



nCino

代表取締役社長 野村 逸紀氏

— コロナ禍で融資をどう支えるか。

「金融界では、取り扱う融資案件数が増えている。弊社の仕組みでデジタル化を図り、業務効率化を実現する。営業人員の時間を創出し、取引先支援に注力できる環境を整える。また、多くの金融機関が目指すデータ主体の組織作りにも貢献する」

— 特長は。

「顧客情報を起点に、潜在層を獲得できることが強みだ。CRM (顧客管理) システムとの連携を前提に、法個人のイベントに合わせた商品の提案を半自動化。申し込みから内

を見込んでいる」

— コロナ禍でのIT投資のあり方は。

「地域金融機関が抱える多くの取引先で、経営状況が予断を許さない環境が続く。銀行向けのシステムでも、クラウドサービスが充実してきた。思い切った全面リプレイスした方が一層の効果とスピードを出せるだろう。既存業務を精査してプロセスごとに見直すより、コストや導入にかかる時間で優位性がある。経営が下した投資の決断をいち早く成果として還元するために、クラウドを積極的に検討してほしい」

— 導入実績は。

「海外では、1200を超える銀行で導入されている。米国の地域金融機関では、数週間要していた承認作業を10分以内まで短縮した。また、収益向上の成果として、月間法人融資件数を3倍以上に増やした例もある。日本国内でも40機関から引き合いを受け、21年初旬にも銀行での採用 (聞き手 菊池 友信)

のむら・いつき 東京都出身、43歳。2000

1年慶大卒、富士通やEMCジャパン (現デル・テクノロジーズ) を経て、20年11月から現職。